

2025年度自己点検・評価結果報告書

北海道情報大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）
「情報の世界」

1. 授業概要

デジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる基本的素養を身に付けること、および数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能を扱う際に、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意思でAIの恩恵を享受し、これを説明・活用できることを目指す。

2. 2025年度履修状況

当該科目の2025年度履修者数は337名（1年生276名、2年生21名、3年生22名、4年生18名）であり、履修対象者数の約57%となった。

※履修対象者数：

593名（374名（現1年生）+368名（現2年生）+435名（現3年生）+461名（現4年生）-1045名（2024年度までの修得者数））

3. 2025年度成績状況

授業における学修到達目標の達成度を試験により評価し、成績（GP）に反映した。

成績は、秀108名、優92名、良59名、可43名、不可35名となり、約90%の学生が単位を修得している。

【授業における学修の到達目標】

- 社会におけるデータ・AIの利活用に関連し、社会の動向、実際のデータ、活用領域、技術、を知る。
- データ・AI利活用における留意事項（情報倫理など）について知る。
- データを読み、扱い、説明するというデータリテラシーを身に付ける。

4. 2025年度自己点検・評価

昨年度と比較し、履修率は約65%から約61%へと減少した。また、秀および優の割合は約82%から約66%へと低下し、単位修得率も約97%から約90%へと減少している。

成績分布の変化については、履修対象学年の拡大に伴い高学年履修者が一定数含まれていることが一因と考えられる。一方で、約90%の学生が単位を修得しており、学修の到達目標の基礎的達成は概ね確保されている。

5. 改善点

学習支援の強化、補修教材の充実等を通じて基礎学力の底上げを図る。